

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



6-7面

食と農を未来へつなぐ(5) 担当理事インタビュー
高尾雅之常務理事(米穀農産事業担当)

2面

香港で飛騨牛輸出15周年PR
(岐阜県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

香港で飛騨牛輸出 15周年プロモーション

現地輸入業者へ感謝状、料理振る舞い魅力を発信

岐阜県本部



飛騨牛のプロモーションに参加した関係者

山内会長は「香港は重要な輸出先であり、今後も友好を深めていきたい」と述べ、長年飛騨牛の取り扱いをしていただいている現地輸入販売業者へ感謝状と記念品を贈呈しました。

飛騨牛を試食した参加者からは「口の中ですごくおいしい」と絶賛の声が上がり、輸入販売業者は「香港での和牛の人気は高く味・品質ともに好評だ。今後も積極的に飛騨牛を取り扱っていきたい」と期待を述べました。

岐阜県本部は2月24、25日、飛騨牛の主要輸出先の香港で飛騨牛輸出15周年を記念したプロモーションを行いました。産地や生産者を紹介し、現地輸入販売業者へ感謝状と記念品を贈呈しました。シェフによる飛騨牛にぎりや、焼き肉などの料理を現地メディアなどに振る舞い、試食をしながら意見交換を行いました。

岐阜県本部の山内清久会長、岐阜県農林水産物輸出促進協議会の西村寿文会長、JAひだの谷口壽夫組合長、高山市の田中明市長、飛騨牛生産者・関係者と、JA全農インターナショナル役員、現地輸入販売業者、メディアなどが参加しました。

JA全農契約栽培米多収コンテスト表彰式

会長賞の(株)米見(JA晴れの国岡山)ら7人受賞

米穀部



米見の奥津代表(前列中央)、檜田さん(前列右)ら受賞者

全農では、稲作生産者の経営安定に向け、安定取引が見込める業務用実需者との契約栽培を行っています。契約栽培では、実需者の安定仕入れニーズなどを踏まえ、主に多収品種で取り組んでいます。コンテストは、契約栽培に取り組む生産者の栽培技術・生産意欲の向

全農は3月2日、東京・大手町で「令和4年度JA全農契約栽培米多収コンテスト」の表彰式を行い、「全国農業協同組合連合会会長賞を受賞した(株)米見(JA晴れの国岡山)ほか生産者6人を表彰しました。

上を目的に始め、5回目となります。

全農会長賞にはJA晴れの国岡山管内の米見(品種…とよめき、反収908キ)、全農理事賞最優秀賞にはJA兵庫六甲管内の檜田幸吉さん(品種…とよめき、反収882キ)が選ばれました。

米見の奥津賢司代表取締役は「連作すると地力が弱まるため、ブロックローテーションをしながら、高純度ケイ酸を追肥したことが高収量につながった。今後も多収を目指しながら、契約栽培に取り組みたい」と語りました。

コンテストの結果についてはこちら





日本一輪車協会主催の各種大会に協賛

開催県の「ニッポンエール」商品などで選手を応援

広報・調査部

日本一輪車協会主催の各種大会

日程	大会名	会場
8/14(日)	全日本一輪車競技大会(レース部門)	愛鷹広域公園多目的競技場(静岡県沼津市)
8/28(日)	全日本一輪車競技大会(ペア・グループ演技部門)	高崎アリーナ(群馬県高崎市)
9/18(日)	第8回全国小学生一輪車大会(演技部門)	須賀川アリーナ(福島県須賀川市)
11/6(日)	全日本一輪車マラソン大会	大井川陸上競技場・マラソンコース(静岡県焼津市)
11/23(水・祝)	全日本一輪車競技大会(ソロ演技部門)	静岡市北部体育館(静岡県静岡市)
3/19(日)	ALL JAPAN Uni-dancing Competition(舞台演技)	弘前市民会館(青森県弘前市)

一輪車の各種大会では、開催県産の全農の商品ブランド「ニッポンエール」のグミなどを提供し、選手たちを応援しました。一輪車の競技種目はトラックレース、マラソン、演技(ソロ・ペア・グループ)、舞台演技などの部門があり、どの種目もハイレベルなパフォーマンスで、会場を沸かせました。

全農は2022年度に開催された日本一輪車協会主催の各種大会へ協賛し、選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。



「僕らはおいしい応援団」セレクトギフト販売

長野県の名産品や知られざる逸品をカタログに

長野県本部



僕らはおいしい応援団のセレクトギフト

ネットショッピングモール「J-Aタウン」でのJA全農長野のショップ「僕らはおいしい応援団」から長野県産の名産品や知られざる逸品を厳選したカタログギフトになりました。

WEB注文方式のカタログギフトになります

「僕らはおいしい応援団」は、全農の産地直送通販サイト「J-Aタウン」での長野県本部のショップの名産品です。取り扱う商品を中心に、県内の名産品や知られざる逸品を厳選し、カタログギフトにしたのが「僕らはおいしい応援団」のセレクトギフトです。県内産を集めたオリジナルのラインアップで地域についての理解を深め、長野県の良さのPRと地域への還元も目指します。購入希望は地元カンパニー(電話番号050-3200-0824)まで。

長野県本部と長野県信用農業協同組合連合会(株)地元カンパニーが業務提携し、3月から「僕らはおいしい応援団のセレクトギフト」の販売を開始しました。



全農職員としての決意を新たに

令和5年度入会式 277人が仲間入り

総務人事部



決意表明を行う新入社員代表の大西さん(左)と久米さん

「僕らはおいしい応援団」のセレクトギフトは、全農の産地直送通販サイト「J-Aタウン」での長野県本部のショップの名産品です。取り扱う商品を中心に、県内の名産品や知られざる逸品を厳選し、カタログギフトにしたのが「僕らはおいしい応援団」のセレクトギフトです。県内産を集めたオリジナルのラインアップで地域についての理解を深め、長野県の良さのPRと地域への還元も目指します。購入希望は地元カンパニー(電話番号050-3200-0824)まで。

菅野会長は、「われわれの仕事は、組合員の営農と暮らし、日本の食と農を支え、地域や社会に貢献する大変やりがいのある仕事だ。歴史の大きな転換期の中で、社会・経済の変容を若い感性で体感することは得難い体験であり、社会がどう変わっていくのかつばさに観察し、将来の糧にしてほしい」と激励のメッセージを贈りました。

新入職員を代表して大西慧士さん(県本部所属)と久米美穂里さん(本所所属)が、「全国各地に配属される仲間とともに、助け合い、切磋琢磨しながら農業をより利益ある魅力的な事業にする」と決意表明しました。

全農は4月3日、令和5年度新規採用職員の入会式を行いました。菅野幸雄経営管理委員会会長から辞令書が手渡され、277人が新たな仲間として加わりました。

全農グループ 会社探訪

協同乳業株式会社

酪農家が生み出す乳の持つ価値を伝えて70年 生産者と消費者から愛される企業を目指して

2022年6月から全農のグループ会社となった協同乳業は「酪農と乳業の共生」を基本理念に掲げ、酪農家が生産する「乳の価値」を引き出す独自の生産技術や研究を日々追求し、商品開発に取り組んでいます。今年には創業から70周年を迎え、これからも健康で豊かな食文化の創造に貢献する企業を目指します。

【広報・調査部】

「農協ブランド」の商品



「メイトーブランド」の商品



生乳生産・加工・市場が力を合わせることを理念に

協同乳業は1953（昭和28）年に「酪農と乳業の共生」を創業理念に掲げ、長野県の生産者とJ・A、名古屋精糖（株）が一体となって設立されました。酪農家が丹精込めて生産した生乳を使い、おいしい牛乳や乳製品を作るところから始まり、現在は全国に9工場※1を配置し、広域展開の生産体制を通して多くの消費者に商品を提供しています。主な事業内容である牛乳・ヨーグルト・アイス・クリームなどの製造や販売、牛乳をもとにした素材事業などでは、多くの日本初の取り組みを持ち、独自の生産技術や研究を生かした商品を数多く提供しています。

「酪農の輪プロジェクト」で酪農家と消費者の思いをつなぐ

「酪農の輪プロジェクト」は、全農と協力し牛乳の消費拡大と生産基盤の安定に資することを目指し、消費者・流通と酪農家との相互理解の促進や、牛乳乳製品の魅力を発信する取り組みです。

その一環として、「酪農家のつばやき」シリーズと題し、酪農家の想いや酪農の豆知識をPOPにして農協牛乳の販売スペースで発信しました。

また、親子を対象にした「オンライン牧場体験」を実施し、消費者に牧場や酪農家の仕事について知ってもらう機



消費者と酪農家をリアルタイムでつなぐ「オンライン牧場体験」

創意工夫で消費拡大 生産者とともに発展へ

代表取締役社長
宮崎 幹生氏



当社は、おかげさまでもちまして、本年、創業から70周年を迎えることができました。

長年、メイトーブランド商品を中心に製造・販売してまいりましたが、「農協牛乳」の発売を契機に、当社の製造技術や商品開発力を活かした「農協珈琲」「農協ヨーグルト」「農協ミルク」などの農協ブランド商品の販売拡大にも精力的に取り組んでいるところです。「農協ミルク」を開発する際には、生乳の需要拡大や地域貢献を意識した上で、生乳の使用率を引き上げ、市場流通にのらない果実から搾った果汁を使用するなどのフードロスをゼロの取り組みを交えた商品づくりを行いました。

一昨年以降、原材料価格、飼料価格、燃料費などが高騰しており、私どもだけではなく生産者の皆さまも大変厳しい環境下にあります。当社ならではの創意工夫を行い、生産者の皆さまとともに発展していけるよう引き続き消費の拡大などに取り組んでまいります。

研究会を設け、生産者と消費者を結ぶ懸け橋の役割を果たしています。

**乳の力と腸内環境を
追求する研究開発進む**

研究開発では乳酸菌やビフィズス菌を対象に腸内環境の研究に取り組み、ビフィズス菌 LKM512を用いたヨーグルト「LKMヨーグルトBV」しなやか血管サポートの商品化に成功しました。この商品は、ヨーグルトで日本初の血管のしなやかさ維持に役立つ機能性表示食品です。現在、大学など数多くの研究機関と共同研究を行い、高齢化社会における新

腸内環境や機能性表示食品などを
中心とした研究開発



たな価値訴求に向け、健康寿命の延伸を実現する科学的根拠のある商品開発に取り組んでいます。

「メイトー」と「農協」
商品ブランドを強化

協同乳業の商品である「メイトー ホームランバー®」や「メイトー」のなめらかプリンで長年愛されてきた商品ブランド「メイトー」とともに、全農と取り組んでいる「農協牛乳」を軸とした「農協」ブランドを展開し、付加価値の高い商品を提供しています。また、お客さまと酪農家をリアルタイムでつなぐ「オンライン牧場体験」企画では、酪農家の仕事や乳牛について身近に感じていただくとともに、酪農家が丹精込めて育てた乳牛から搾乳した生乳を使った農協

牛乳の販売などを通じ、協同乳業の企業価値の向上にも努めています。

会社の概要 (2022年3月現在)

- 本社所在地** 東京都中央区日本橋小網町17番地2号
- 本部所在地** 東京都板橋区板橋三丁目9番7号
板橋センタービルディング
- 事業内容** 牛乳、アイス、デザート、乳製品の製造、販売、牛乳をもとにした素材事業など
- 創立年月** 1953(昭和28)年12月
- 代表者** 代表取締役社長 宮崎 幹生
- 従業員数** 578人



本部受付

公式
ホームページ
はこちら



<https://www.meito.co.jp/>

「農協ミルク 山梨産ぶどう」1ケース(12本)を5名様にプレゼントします。

応募方法

2次元コードを読み取り、郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、全農グループ会社探訪の感想をご記入の上、ご応募ください。

締め切り

2023年4月28日(金)
23時59分

応募は
こちらから



※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

※いただいた個人情報、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



食と農を

未来へつなぐ

5

全農事業担当理事インタビュー

米穀農産事業担当常務 高尾雅之



米・麦・大豆・でんぷんの事業を担当する高尾雅之常務理事に、令和4年度の振り返りと5年度の戦略について聞きました。

【広報・調査部】

令和4年度を振り返り、どのような一年でしたか。

疫病や戦争など、異なる種類の危機が輻輳しながら継続する一年でした。世界的に自国の食料確保を最優先することが顕在化し、日本は「備えあれば、憂いなし」の幻想から「憂いあれば、備えておく」という現実にさらされ、食料安全保障は喫緊の課題だという認識です。

食料安全保障や持続可能な営農の観点から、食料・農業・農村基本法の見直しを好機と捉え、生産者の期待に応える農政展開と系統結集を図るチャンスではないかと考えています。

米に関してはどのように見えていますか。

主食用米の需給状況は生産者やJAの努力によって均衡状態に移ってきていると捉えています。一方で系統集荷は非常に苦戦を強いられています。米価も回復傾向ではありませんが、生産コスト増に販売価格が追い付いておらず、生産費を賄う水準までは程遠い状況であるといえます。今こそ適正な価格形成を促すフランスの法律・エガリム法の日本版を整備すべきと思っています。特に生産現場では「担い手頼み」から「担い手も離農」へ移ってきており、集落単位で機能不全に陥る兆

候が見受けられるなど、待ったなしの状況です。

5つの取り組み 16の取り組み

令和5年度の取り組みむべき課題と方針をどのように考えていますか。

大きくとらえれば確実な需給改善に向けた5つの取り組みと、今後の事業環境変化に対応する16の取り組みが5年産の方針です（7面左上図）。そして次の7点、①需給均衡に向けた計画生産の実践②担い手への対応強化③新品種開発や種子確保への対応強化④JAや生産者との関係を再構築し系統取り扱いのシニア拡大⑤米加工事業の強化⑥適正価格や消費拡大に向けた広報宣伝や理解醸成活動の展開⑦出荷契約業務のデジタル化・WEB化によるJA業務の標準化・効率化や、物流改善——に重点を置いて取り組みます。

麦・大豆・飼料作物を生産拡大

米穀農産事業を取り巻く環境についてどのように見えていますか？

今までは主食用米が過剰になり、その改善策として加工米や飼料米、米粉米、輸出米といった「水田活用米穀」を推進してきました。直近では作付け転換が功を奏し、5年産に向けた主食用米は需給改善の兆しが見受けられ、相対販売価格も上向き基調となっています。主食用米の価格が好転するのは喜ばしいことですが、水田活用米穀から主食用米へ逆流することが懸念されます。そうになると、また主食用米の供給過剰が起こり、米価の下落や大幅な作付け転換を余儀なくされるでしょう。

農政の動向をみると、①米から別の作物への転換、特に畑作化②土地そのものを水田から畑地に転換——という方向に向かっており、それらに対応した農業政策や予算が重点的に措置されているのが特徴と言えます。そこで、水田活用米穀の次の受け皿として麦・大豆・飼料作物などの生産拡大が注目されています。つまり、これらの作物を増産することは、世論を味方につける千載一遇のチャンスと言えます。

チャンス到来と言われる麦・大豆には、どのような課題と打ち手がありますか？

フォローの風がある中で、産地ではJAを中心に麦・大豆・飼料作物などを積極的に推進しているものの、大きく三つの点で課題があります。

一つは生産面です。麦や大豆は豊凶の差が顕著なため、栽培技術の向上や新品种の開発により、安定生産を手助けする必要があります。

そこで麦では農研機構や日清製粉などと連携し、汎用性が高く広域に普及が可能な栽培特性を持ち、穂発芽^{ほはつが}耐性が強く多収で、製粉適性のある国産小麦の開発に向け、現地実証試験を実施しています。4年産(3年播種^{はくしゅ})では良い結果が出たので、5年産(4年播種)の候補品種を決め、昨年同様、現地実証試験と生育調査を実施していきます。大豆では農研機構などと連携し、

確実な需給改善に向けた5つの取り組み

- 1 計画生産:主食用米への作付け回帰とらないよう需要に応じた生産を継続
- 2 水田活用米穀の作付け提案:5年産は90万ト(前年+18万ト)を目標に取り組む
- 3 生産コスト低減:持続的な米生産を確保するため、営農・資材部門と連携して取り組む
- 4 系統取扱数量の拡大:JA・担い手推進強化による連合会取扱210万トの確保
- 5 米価格への理解醸成:米生産の現状と米消費拡大の重要性について、消費者へ直接的に訴求

今後の事業環境変化に対応する16の取り組み

川上(生産)への対応

- 1 子実とうもろこし等の作付提案
- 2 新品种開発および種子確保に向けた法人との連携
- 3 業務向け契約栽培の拡大
- 4 業務の標準化・効率化

川中(流通)への対応

- 5 実需者直接販売の拡大
- 6 事前契約の拡大
- 7 買取販売の拡大
- 8 産地インフラの整備
- 9 物流改善

川下(加工・消費)への対応

- 10 パールライス事業再編
- 11 精米販売の拡大
- 12 米加工事業の強化
- 13 輸出用米の拡大
- 14 米消費拡大
- 15 環境負荷軽減の取り組み
- 16 環境に配慮した生産・流通の取り組み

極多収系統の種子の生産と普及に取り組み、2品種の品種出願登録が予定されています。低単収が課題となっている地域を中心に、普及拡大を図りたいと考えています。また、播種適期の広い品種の育種も進めます。

二つ目は流通面。増産に伴って不足する保管施設をいかに確保するか。また、乾燥調製施設の老朽化にも前広に手を打っていかねばなりません。麦ではサイロ倉庫も含めた計画的な倉庫収容力の確保対策を実施します。大豆では、国の事業を活用し、消費地に国産大豆専用倉庫を整備します。消費地への集約保管を進めるとともに、各地域の庫腹不足解消を図ります。大豆の容器・輸送形態の改善については、実需者からの要望が強いフレコン

バッグなど大型規格での出荷に取り組みなくてはならないと認識しています。

また、大豆のコンテナ輸送や角型・隔壁型のフレコンの利用など、輸送・保管の効率化に資するモデルづくりを行い、手荷役軽減のための半貫・二貫パレチゼーションシステム※の試験運用を始めていきたいと考えています。

三つ目は価格面です。急激な生産拡大による販売価格の低下も懸念されるので、段階的な増産を進めます。麦の増産に向けては、実需者が求める品質のパンや中華麺用品種の生産拡大を図りながら、品質に見合う価格形成に努めていきます。


大豆については、高価格帯で取引されるものは国産付加価値需要の固定化と拡大を図ります。中価格帯の場合、価格的には海外産と競合しますが、海外産大豆の価格も上がってきているので、国産ニーズも生まれています。実需者の海外産の将来的な確保への不安感を背景に、国産への期待を生かして有利販売拡大に努めたいと考えています。その一環として、他企業と連携し、豆腐バーなど国産原料を使用した商品の開発や、プラントベースフードといった新規需要の国産化を進めていきます。

ミドルアップダウン調整型に
——最後に令和5年度のスタートにあたり一言お願いします。

米については需給も改善し、環境的にはかなり良くなってきたので、生産者やJAと協力し、もう一段、米価を上げていきたい。ただし、麦・大豆についてはプロダクトアウト型の生産だと需要やニーズを無視したことになり、供給過剰になって買ったかたたり、保管経費の増高^{ぞうこう}に陥ったりすることが考えられます。そのため、全農としてのマーケットイン型、またはミドルアップダウン調整(プロダクトアウトとマーケットインの中間)型の生産販売戦略を策定することがポイントになるでしょう。しかし、産地が川下のニーズを全て把握することは難しく、プロダクトアウトが先行してしまうのも事実です。その懸け橋として全農が間(ミドル)に入り、実需者ニーズを産地に伝え、産地の作付け方針や重点品目を実需者に理解してもらおう。われわれ全農がこのミドルアップダウン調整の役割を果たすべきだと感じています。

※ 半貫パレチゼーション・産地⇄倉庫⇄倉庫⇄販売先で異なるパレットを利用して流通する仕組み
一貫パレチゼーション・産地⇄倉庫⇄販売先まで同一のパレットを使用して流通する仕組み

フルバージョンは
webサイトへ



直営飲食10店舗で「冬春なすフェア」

主産県協議会が4月17日「なすび記念日」でPR

全農は4月14~30日、みのりみのる店舗(10店舗)で「冬春なす主産県協議会」とのコラボレーション企画「冬春なすフェア」を開催しています。【フードマーケット事業部】

JAグループ冬春ナス主要産地(岡山、徳島、高知、福岡、佐賀、熊本)で構成する「冬春なす主産県協議会」は、出荷最盛期を迎える春先にかけて多くの人にナスを食べてもらうことを目的に4月17日を「なすび記念日」に制定し、販売促進や食育活動に取り組んでいます。

フェアでは、各産地の「長なす」「短なす」を店舗ごとに趣向を凝

らしたオリジナルメニューで提供します。また、飲食された方先着500人に自宅でおいしいなす漬けが簡単に作れる人気商品「エコープなす漬の素(1袋・レシピ付き)」を各店舗でプレゼントします。

「エコープなす漬の素」は、JAタウン「エコープのお店」でも購入できます。

「エコープなす漬の素」購入はこちら▶



岡山県産「千両なす」と大豆ミートのポロネーゼ & 自家製ハンバーグ定食



メニュー提供概要

期間

令和5年4月14日(金)~
4月30日(日)

実施店舗 (10店舗)

- ①【宮城】グリルみのるエスパル仙台
- ②【東京】みのる食堂銀座三越
- ③【東京】みのりみのるチキン二子玉川東急フードショー
- ④【大阪】和牛とごはん焼肉じゅん枚方市役所前
- ⑤【岡山】みのるダイニングさんすて岡山
- ⑥【広島】みのる食堂エキエ広島
- ⑦【福岡】みのりカフェミュプラザ博多
- ⑧【福岡】みのりカフェ福岡パルコ
- ⑨【佐賀】みのりカフェ季楽コムボックス佐賀駅前
- ⑩【熊本】みのる食堂アミュプラザくまもと

機能性ブーツ「アグリカラー」発売

柔らかく軽い 農作業やガーデニング、レジャーにも

伸縮性に優れた機能性ブーツ
「アグリカラー」

(株)Aコープ東日本クミックス事業部は1月から、普段の農作業から週末農業やガーデニングにも活躍する機能性ブーツ「アグリカラー」をJA共同購入、JAグリーン店舗などで発売しています。

【くらし支援部、(株)Aコープ東日本】

「アグリカラー」はこれまでの農作業用シューズの良さを生かしつつ、軽量・防水・伸縮性に優れたスポンジゴムを採用し、農作業からガーデニング、レジャーシーンでも大活躍できる機能性ブーツです。デザインは、シンプルでスタイリッシュ、機能面でも優れ、柔らかく軽いので丸めて持ち運びも可能です。カラーは、ブラック・ネイビーの2色、男女兼用サイズでSS~3Lを用意しています。普段使いから仕事用まで、幅広く活用いただけます。



JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

JALみずアンテナショップきらり

静岡県清水区三保地区は大正時代より続く有数のトマト産地。伝統を受け継ぎ、温暖な気候を利用したハウス栽培が盛んに行われています。

「レッドオーレ」は酸味が少なく、フルーティーな甘さが特徴の中玉トマトです。その名の通り、濃い赤色で球形の果実で、ミニトマトより少し大きいゴルフボール大。

おやつ感覚で手軽にパクっと口に運べる食べやすさが魅力です。サラダやトマトソース、甘酢あんなど生のままでも火を通して、おいしく食べられます。



静岡清水産 レッドオーレ トマト 30玉入り
……1200円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com

